連合福島スポット情報

762 号　　2025 年 08 月 19 日　発行　　福島市仲間町 4-8　連合福島　組織広報局

「連合 2025 平和行動 in 広島」派遣団報告

語り継ぐ戦争の実相と運動の継続で　核兵器廃絶と恒久平和を実現しよう

～被爆80年 連合2025平和ヒロシマ集会に、全国から1,669名が結集～

平和行動 in 広島へ参加の皆さん

「連合２０２５平和ヒロシマ集会」が８月５日（火）上野学園ホールにおいて、全国から１，６６９名の仲間が結集して開催された。

連合福島からは、いわき地区連合の中丸一三団長と共に計 10 名が参加。中丸団長は冒頭、連合福島を代表して折鶴を献納し、戦争の悲惨さを二度と繰り返さない決意を示した。

連合広島女性委員会の中桐由紀子副事務局長の司会で集会がはじまり、参加者全員で黙とうを行った後、主催者を代表して、連合芳野友子会長が挨拶した。その後、地元連合広島大野真人会長、来賓として広島県横田美香副知事、広島市山藤貞浩市民局長、国際労働組合総連合（ＩＴＵＣ）リュック・トリアングル書記長からそれぞれ挨拶があった。

平和の歌合唱

被爆証言では、広島県原爆被害者団体協議会 切明　千枝子様が、学徒動員中に被爆した体験を語り、「平和を守り抜く責任を若い世代に託したい」と静かに、しかし強く訴えた。

挨拶する連合芳野会長

その後、若者からのメッセージとして、２７代高校生平和大使より活動報告、２８代高校生平和大使よりメッセージがあった。続いて連合広島大野会長から連合長崎髙藤会長へピースフラッグリレーが行われた。最後に全員者参加で「平和アピール」を採択し「ヒロシマ集会」は閉会となった。

集会終了後、原爆ドーム前広場に場所を移し献花・献水を行い、原爆の被害で亡くなられた方々を偲び、犠牲者を悼むとともに、二度と惨禍を繰り返さぬ誓いを新たにした。

翌６日（水）には、平和記念公園周辺から厳戒態勢下の式典に合わせて黙とうを捧げた。平和ヒロシマ集会と平和視察研修を通じ、世界で唯一の被爆国である日本から核兵器廃絶と世界の恒久平和実現に向けて尽力することを宣言し、平和運動がさらに広がり、戦争のない平和な世界が実現することを広島の空へ改めて願った。

会場にて

今回の派遣を通じ、私たちは「戦争の記憶を語り継ぐこと」と「未来へ平和を引き継ぐこと」の重みを改めて胸に刻みました。被爆 80 年の節目にあたり、核兵器のない世界を実現するため、連合福島も地域から声を上げ続けていく決意です。

酷暑の広島での 3 日間、派遣団は中丸団長を中心に団結し、その役割を果たしました。参加いただいた皆さまに深く感謝申し上げ、ここにご報告いたします。（記：事務局　田﨑）